



Vol 2 (令和3年4月)
発行 伊丹市立幼児教育センター
編集 幼児教育センター長 川阪

★こどもの主体性を考える (幼児教育推進課長 矢田貴美代)

「主体性の育成」は、幼児教育界においては長きに亘り、教育・保育の主軸にあるものです。「主体性」=「活発・活動的」ではないことは言うまでもありません。一見、何もしていないように見える子についても、何もしていないのではなく、何を見て、何を考えているのか、どのように心が動いているのかと興味深いものです。

玉川大学の大豆生田教授は、子どもの中で「発酵する」時間の大切さを語られています。子どもの中には豊かに「感じる」時間があり、それが豊かな表現に結び付くまでの「発酵」する時間が大切だということです。豊かな表現に結び付くまで時間がかかる子どももいます。しかしながら、その「発酵」する時間が何とも尊い時間だと思います。

乳幼児期は、急いで成果を求めず、一人一人の子どもの「発酵」する時間を丁寧に支え、本物の「主体性」を見出していきたいと改めて強く思いました。

令和3年度も市全体の幼児教育の充実に向けて取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

★幼児教育に関するアンケートのご協力ありがとうございました

令和2年度の幼児教育センターのキーワードは『繋がりを作る』でした。市内85施設を訪問し、教育・保育や園運営、子どもの発達についてなど対話を通じて繋がらせて頂きました。公私や種別を越えて「繋がる」のは、全国的にも珍しく、本市の幼児教育の特徴とも言えます。令和3年度のキーワードは『繋がりを広げる、深める』です。令和2年度に繋がった絆を基盤として、幼児教育のさらなる充実を図ってまいります。

令和2年度の実績とともに、年度末に実施した「幼児教育に関するアンケート」の結果(一部抜粋)をお知らせいたします。令和3年度に向けて反映させてまいります。

①幼児教育研修会について

◇幼児教育研修会全12回実施。

(実績:のべ参加人数 508名)

◇新人研修会全8回実施

(実績:のべ参加人数 216名)

◇その他、キャリアアップ研修や自主勉強会などを実施

<頂いたご意見>

- ・リモート研修が初めてで、保育所で集中して受けるのが難しかったが、参加できてよかった。
- ・年齢別研修会、運動会や発表会などの行事を主とした内容の研修会、学びたいと思えるような研修会を企画してほしい。
- ・管理職研修(人材育成)を充実させてほしい。

②研究会について

◇幼小接続研修会2回実施(実績:13名参加)

※コロナ禍により、拠点園の公開保育研究会は縮小、制限をして実施しました。



幼児教育研修会の様子



<頂いたご意見>

- ・小学校教育についての情報を得られる機会がほしい。小学校と交流をもちたい。
- ・小学校、中学校など校種交えて合同研修等の実施や人事交流、相互の派遣などができる場が必要だと感じている。

③幼児教育アドバイザー訪問について

- ◇アドバイザー訪問(実績:のべ430回)
- ◇相談件数(実績:158件 うち職員86件、保護者72件)
- ◇アドバイザー報告会(実績:13回)



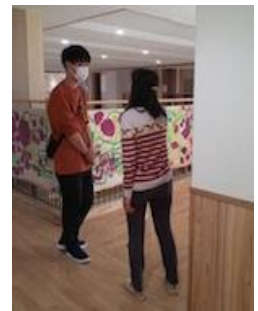
環境構成
助言の様子

<頂いたご意見>

- ・市内の情報を共有できる。心強い、安心感がある。
- ・客観的に保育を見て、助言や指導ありがたい。
- ・もっとアドバイスをもらいたい(今の保育環境でいいのか?など)
- ・利用の仕方がわかりにくい。

④家庭教育・子育て支援について

- ◇家庭で過ごす乳幼児向け動画配信(実績:23本 再生回数のべ2万回)
 - ◇出前講座「就学前の施設について」(実績:5回)
 - ◇「ケーブルテレビ市広報番組」にて伊丹市幼児教育ビジョンの周知 <https://youtu.be/Zx3CovvtA9I>
- 今後も皆様からのご意見をもとに、さらに「幼児教育の充実」を図ってまいります。



新人フォローの様子

★おススメ保育専門書

「春夏秋冬環境づくり」

すぐに使える378のアイデア
ひかりのくに

瀧川光治 著

*保育環境を整える際に、色々
と悩むことはありませんか。瀧
川先生の解説と写真で、とても
わかりやすく保育環境が作れま
す。(伊丹市内の施設の環境が
写真で多く掲載されています)



「日本が誇る!
ていねいな保育」 小学館
大豆生田啓友 著
おおえだけいこ 著

*忙しい先生こそ必見です。保育
のていねいさとは、何なのか。保育
者が大事にしたい内容が満載で
す。



「たろうのひっこし」 福音館
村山桂子 さく
堀内誠一 え

*この絵本を子ども達に読んだ
後、保育室の片隅に、「小さな布切
れ」をさりげなく置くと、子ども達
はどのような遊びを始めるでしょ
うか。春におすすめ、子ども達の心
をくすぐる一冊です。



★あしがきコラム

近年「保育環境の重要性」がますます叫ばれています。以前、ある園を訪問した際に、一人の園児が「あなたもここ(の園)で遊びたいでしょう。」と得意気に声をかけてくれました。「うん。とっても楽しそうだから遊んでいい?」と返すと、「いいよ。だってもう友達だからね」と答えてくれました。園庭には木漏れ陽が差し、子どもが作った基地、穴だらけの大きな築山、子ども達が夢中になって遊び、あちこちに「ときめき・ひらめき」が溢れていました。

自信と愛情に満ちた子どもの姿をみて、つくづく「保育環境の大切さ」を感じました。保育者として今、私にできる事からやりたい、と思った瞬間でもありました。令和3年度も、コロナに負けずに頑張っ参りましょう。